

戦後日本前衛美術におけるパフォーマンス史

アナキズムと前衛美術 1

2011/11/20(日)
会場 下北沢ラ・カメラ

Picture, Photograph & Film
LACAMERA
118-0011 東京都世田谷区下北沢4-44-12 電話(03)347-1527
TEL:03-347-1527

入場料 1000円

【一部】18:00より
お話し「肉体のアナキズム」
黒ダライ

【二部】19:30より
対談「60年代の政治と美術」
高野慎三 × **黒ダライ**

1960年代、その表現が政治的でも芸術的でもなく、ときどき見る者に嫌悪さえ覚えさせた前衛芸術家たち。九州派、風倉匠、小山哲男、クロハタ、ゼロ次元、告陰、万博破壊共闘派、集団蜘蛛、糸井貫二……。従来の美術史からも運動史からも無視されてきた彼らの実践とは何だったのか？ なぜ評価されることなく、歴史から欠落したのか？

第一部では、60年代の前衛芸術家たちを膨大な資料と長年の調査によって丹念に掘り起こした大著『肉体のアナキズム—1960年代・日本美術におけるパフォーマンスの地下水脈』の著書・黒ダライ児さんに話を聴きし、第二部では黒ダライさんに加えて、北冬書房主宰にして、『幻燈』『アナキズム』誌上などで美術関連の論考を発表している高野慎三さんをお招きし、『1960年代の政治と美術』をテーマに語ってまいります。

本イベントは、アナキズム文庫センター主催ですが、「幻燈」展覧会の後援を受けて実現する企画です。関連企画として、「幻燈」展覧会でも19日に「石子順造をめぐって」と題するトークイベントも開催され、黒ダライ児さんも来場予定です。

幻燈 展覧会 @ラ・カメラ
11/14(日)~27(日) 14:00~21:00

reson.o@yahoo.co.jp | 03-3466-7782
http://a.sanpal.co.jp/hokutoh/

書北 展交

CIRA Japana
www.cira-japana.net

主催：アナキズム文庫センター
共催：展交 | info@cira-japana.net

「アナキズム文庫センター主催のイベント『アナキズムと前衛美術—戦後日本前衛美術におけるパフォーマンス史』が11月20日に下

著者である黒ダライ児さんが講

から語ってもらいます。はたして、従来の美術史からも運動史からも

無視されてきた彼らの実践とは何

イベント開催！

文庫センター主催で

北沢ラ・カメラで開催。

演。60年代に活動した前衛美術家

主宰者であり、かつ『アナキズム』

と長年の調査によって丹念に掘り

たち—九州派、風倉匠、小山哲男

誌上で「前衛芸術と60年安保」な

起こした大著『肉体のアナキズ

破壊共闘派、集団蜘蛛、糸井貫二

さんの論考も発表している高野慎三

けるパフォーマンスの地下水脈』

：たちについてスライドを交えな

マについて、二人の話がどう展開

文庫センター通信

第 17 号
2011年 11月 20日
一部 100円

主な内容

アナキズムと前衛美術	1
二〇一二年版カレンダー発売	2
訂正とお詫びー金子文子の写真	3
橋宗一墓前祭	4
ウォール街を占拠せよ・報告	4
八街だより	6
アナキストクラブ蔵書目録作成	8

■ 毎年恒例、
アナキズムカレンダーが今年も発売！

来年版で6年目となるアナキズムカレンダー。2012年は、昨年に引き続き「アナキストたち」主に戦後に活躍した彼ら、彼女らの軌跡をたどる第二弾となります。

◇ ◇ ◇

秋山清、水沼辰夫ら戦前からの活動家を始め、《無名の人々》にこだわり続けた向井孝や特に60年代に東京行動戦線やベトナム反戦直接行動委員会などの多彩な活動を展開した山口健二や笹本雅敬、美術の枠にはとどまらない川仁宏、今泉省彦、また辻まことの貴重な絵も掲載と、来年版も盛りだくさんの内容です。

ぜひ一年のお供にご活用ください！

2012年

アナキズムカレンダー

※各月で取り上げた人々

1月 川仁宏
2月 秋山清
3月 井上美奈子
4月 水沼辰夫
5月 望月桂
6月 山口健二
7月 遠藤斌
8月 向井孝
9月 今泉省彦
10月 べ反委
11月 笹本雅敬
12月 辻まこと

◆ 価格：1200円（税込）

◆ 判型：A4判、28ページ

◆ ご注文・お問い合わせは：

アナキズム文献センター

東京都新宿区新宿 1-30-12-302

<http://cira-japan.net/>

◆ 取扱店舗：IRREGULAR RHYTHM

ASYLUM（新宿）、模索舎（新宿）、りぶる・りべろ（神保町）、三月書房（京都）ほか



表紙（上）と裏表紙



<http://www.cira-japan.net/>

◇2月



◇4月



◇8月



2010年版カレンダー の訂正とお詫び

11月写真「金子文子」は同姓
同名の別人

2010年版カレンダー「大逆事件100年」の11月に掲載した金子文子の写真(下の写真)が別人であることが判明いたしました。ご指摘くださったのはネット上「進工舎の人びと」舎主のアナ

ゴンさんと、カレンダーで使用した人物写真は日本縫工組合の金子フミ子、当該写真は1928(昭和3)年2月に鈴木文治の選挙応援のために大阪に駆けつけた3人の東京労働婦人同盟の活動家の1人として、その折に撮影されたものであることを諸資料で裏つけておられます。

1928年2月といえば、文子が栃木刑務所で獄死した26年(大正15)年7月から一年半以上の後、意を深くお詫び申し上げます。文献センター運営委員会

[<http://sinkousya.exblog.jp/1444484/>]



金子文子と誤って掲載された写真
<http://www.cira-japana.net/>

名古屋で「橋宗一墓前祭」開催

2011年9月11日(日)、名古屋で「第37回 橋宗一少年墓前祭」(主催||橋宗一少年の墓碑保存会)が開催され、日泰寺境内・墓碑前での墓前祭の後、名古屋市女性会館に場所を移して、廣畑研二さん(日本近代史研究者)による記念講演会が開催されました。

墓前祭では、遠方からの人も含めて約30名ほどが参加。一人ひとり献花を行いました。

記念講演会では、廣畑さんが「北米邦字紙の甘粕事件報道」等

をテーマに当時の北米邦字紙を紹介。日本の検閲から自由であったことから憲兵隊に対する批判なども詳しく掲載されたことなどを取



り上げ、宗一少年の母あやめ(大杉栄の妹)の手紙や手記の公開、父・惣三郎の取材記事などを資料を使って紹介しました。また、中には平塚雷鳥による伊藤野枝追悼文などが書き下ろしの可能性もあるとしたものの、一部の邦字紙はマイクロフィルム化されておらず、日本でなかなか閲覧できない状況も説明するなど、興味深い内容の講演となりました。

最後の意見交換では、現在は開催されていない静岡の大杉栄・伊藤野枝墓前祭の再開について

ての意見も出されました。



※橋宗一は1923年9月16日、伯父の大杉栄・伊藤野枝と共に軍部に虐殺されました。当時まだ6歳。就学のためアメリカから帰国していた移民二世でした。墓碑は73年、日泰寺境内で散歩者によって偶然発見され、以後、無名の少年の死を悼み、毎年墓前祭が行なわれています。

「ウォール街を占拠せよ！」参加報告

成田圭祐

ニューヨーク・ウォール街で、資本主義に対する異議申し立てとしての公園占拠と、そこを拠点とした街頭行動が、約3ヶ月の長期にわたって継続している。この

ウォール街占拠の行動は、反消費主義キャンペーン雑誌「アドバスターズ」が、チュニジアやエジプトの革命からヨーロッパ諸国や南米などにも拡大している、街の広

場での自律空間創造の試みに学びながら、2011年9月15日に、金融界の象徴であるウォール街を「占拠せよ！」(Occupy Wall Street)と呼びかけたことから

始まった。その9月の行動以来、ウォール街の高層ビルの谷間にあるスコッティ公園は、抗議者たちによって占拠され、自律空間として維持されている。

◇ ◇ ◇

10月下旬の約1週間、そのスコッティ公園に、テントと「核」のプラカードを設置して、日本からの友人二人と共に滞在し、占拠の現場を体感してきたわけだが、ちょうどぼくらが滞在した期間は、大規模な行動(10月1日にブルックリン橋上で数千人がデモし、約700人が逮捕・拘束され、橋が一時閉鎖された)の後ということもあり、あまり活発な動きはなく、今後の行動のために状況を窺っているような時期であった。それでも公園は、昼夜問わず人で溢れかえり、公園で寝泊まりする抗議者も観光客もごちゃ混ぜとなつて議論を交わし、公園のあちこちから演説や音楽が、幾重に

もなつて聞こえてくるという状態。一日3回の食事配給のほか、ライブラリーや医務室などもボランティアによって運営され、それほど大きくない公園は過密状態だけれども、なんとか自分たちの自律空間を居心地の良いものにしていう努力が至る所に見えた。徹底した直接民主主義的な手法を用いて開かれる総会(シネラル・アセンブリー)も、毎夜長時間にわたつて熱い議論が交わされた。

ラティーノや黒人などをター



のんびりした屋下がり in Zuccotti Park

ゲットとした、警察による差別的な職務質問や暴力に対する警察署前で抗議行動に連良く参加することが出来たが、この行動では、コネル・ウェストなど著名な黒人の知識人たちも先頭に立って抗議の声をあげ、警察からの解散命令に対しても市民的不服従の意思表示として無視、そして拍手・喝采を浴びながら逮捕されていくという一幕もあった。

現在、この「占拠せよ!」のかけ声は、北米の各都市に広まつており、毎週北米のどこかの都市で大規模な行動が発生するというような、社会的に緊張感のある状態が続いている。10月25日には西海岸のオークランド市で、民衆が占拠した

広場が警察によって排除され、その抗議デモに参加していたイラク帰還兵が、警察が投げつけた閃光弾によって重傷を負うという事

件があった。これを受けて、警察と資本主義に対する抗議の声はさらに拡大し、1週間後には市内全域でのゼネストに発展した。

ニューヨークは、これから雪の降る冬を迎えるため、この「占拠」運動も自然と収束に向かうだろうという意見もよく聞かれるが、ぼくらの滞在期間中にも、冬に備えてどこか屋内の場を占拠しようという動きも実際にあり、この「占拠」運動はまだまだ粘り強く続いていきそうである。



(上) 人民図書館
(右) 公園内のキッチン



八街だより

5月7～8日 東京より整理・

登録済みの資料を運ぶ。長谷川文庫の欧文資料の整理その他。4月から5月にかけて、母屋と納屋2棟の屋根のふき替え工事を進めました。費用のこともあり、古い屋根の上に下地と新しい屋根をかけるという、文字通り「屋上に屋」の二重の屋根という苦肉の策です。でもこれで10年以上家屋は安泰です。

6月11～12日 6月に入ってから長谷川文庫からブルードン関係その他の貸出しを受けていた森野さんの書庫整理を開始。長谷川文庫、ゲゼル関係資料、その他セン

ターに寄贈する資料などをまとめ八街に運ぶことになり、暑いさなか狭い書庫内で汗をかきかき、ほこりと本に取り組み、以後8月まで数回にわたっての作業となりました。

た。

八街の敷地では5月に植木屋さんが木々の大掃除をしてくれたので、むさ苦しかった庭がさっぱりと、しかも奥行きを感じさせるようになり、さすがプロは違うと感心した次第です。でも、雑草の時期が到来、こちらは我々の手で何とかしなくてはなりません。

7月2～3日 新着の長谷川文庫の欧文資料の整理が息つく間もなく開始です。仕事の合間には草刈りです。草刈り機を2～3時フル稼働してもなかなか追いつきません。しかもせっかく刈り取っても次に来る頃にはまた雑草におおわれてしまいます。

8月6～7日 横倉辰次さんの資料を預かっていた友人宅からの資料を川口さんの車で八街に運びました。横倉さんは1983年に亡くなっています。直後に資料を預かったはずですから、横倉資料も30年ぶりに日の目を見ることに

なります。7日は川口さんと大網の江口幹さんを訪問しました。昼食に江口さんお手製のスパゲティをこちそうになり、これまた自家製(庭で収穫したばかり)のジャガイモのお土産までいただいたしまいました。カーナビなし道路マップなし、道路事情に疎い奥沢が案内人という東京―八街の往復はなかなか刺激的でした。

9月3～4日 大型台風15号が通り抜けたあと、ダンボール10箱の資料を八街に運びました。長谷川文庫の欧文資料の整理、横倉資料の整理など、次々に仕事は増えるのですが、なかなかこなせない状態がつづいています。草刈りも待ったなしで、今年は何とか放置されつつけてきた敷地全体の草刈りを目標としましたが、片づいたのは8割方でしょうか。

10月29日 布留川文庫の資料5箱その他をトラックで八街にとんぼ返りの日程で運びました。この

日は倉庫内と倉庫まわりの掃除に専念です。この日に先立って10月3日に植木屋さんの車で植樹の打合せで一度八街に行きました。その後、中旬には10本余の木を植えてもらったので、少し倉庫周辺が柔らかい感じとなりました。

11月5～6日 長谷川文庫の登録作業を終えました。しかしまだ未登録の欧文資料、森野さんからの新規寄贈の欧文資料が書棚3段半を占めています。もっとも仕事に追われてばかりいる訳ではありませんから、ご心配は無用です。今回は2日間しっかり働いたご褒美に、温泉(スーパージョウ)で汗を流したり、最近見つけた安くて美味しいフランス料理屋に立ち寄ってから八街を去りました。



▶マーガレット?

アナキスト・クラブの資料目録がまとまりました

今春から作成に取り組んでいたアナキスト・クラブの資料目録がほぼ完成して10月16日に戸田三三冬さんの手元に届けました。書簡目録を除く全てを網羅し、とりあえず第1版として取りまとめた内容となっております。現在、一部内容の組み替えと書簡を含んだ第2版を制作中です。

今後は機会を見て改めて現物と目録を照合して完成させることと、保管の仕方をどうするかを確定するといった仕事を進めていきます。できたら展示会の開催と目録の刊行などにも取り組みたいと考えています。

なお、リハビリ中の戸田さんは「元気に応対してくれました」とのことです。

運営委員会議事録（抄）

【5月運営委員会】6月10日（金）
（5月27日を変更）

◇第2回総会では、運営委員は当日午後1時にエル・おおさかに集合する。プロジェクターは借りずに東京より持ち込む。PCも東京より持ち込む。Tシャツ販売。懇親会の会費は実費負担（割勘）など。また、当日の分担を決めた。

◇その他の報告・計画の内容を確認。▽カレンダー（来年度、再来年度）大杉）／ウェブサイトの強化／アナキストクラブ蔵書目録作成予定／近藤文庫作成への協力の継続／古本市／八街市所在の倉庫と法人化についての議論の継続。

以上について当日のレジメとするために、東京の運営委員間でメールで追記しながら確定する。

【6月運営委員会】なし

【7月運営委員会】7月26日（火）

◇大杉栄ワイン 酒造会社へ依頼

する予定だが、正式販売には酒販免許が必要。まずは共同購入という形でスタート（酒販免許は引き続き調査）。センター主体で年間何本かの予約をとり、会員への頒布の形で。9月〜10月発売に向けて、ラベルなどを作成。

◇イベントについて 旧自由人講座のような新たなイベント「セミナーA」（仮）を他の団体と共催。

「戦後アナキズム芸術論」「久保隆著『戦後アナキズム運動試論』を巡って」など2カ月に1回程度開催していく。テーマとしては、そのほかに、「海外アナキズム事情」「〇〇さんを招いて」など。

右のほか、最近寄贈された映像資料の上映会も企画予定。

◇聞き取りプロジェクト 田中ひかるさんから提案。戦後のアナキズム運動の経験者への聞き取りプロジェクトを実施。まずどんな人から初めていくかなど、田中さんと相談しながら進めていく予定。

【8月運営委員会】8月16日（火）

◇イベント セミナーA（仮）第1回「戦後アナキズム芸術論」につき、チラシの原稿を作成する。

◇2012年版カレンダー 前回ピックアップした人物を中心に進行し、最終的には9月上旬にセンター所蔵の写真データをチェック。そこで使えそうな写真を選定して、人物を最終決定する。

■13年版カレンダー 「大杉栄、伊藤野枝、橘宗一、虐殺90年」。原稿料を提供し各方面に執筆依頼してはどうか。また、例えば大杉はいろんな顔を持っている。そこで、3人それぞれのテーマを12個集めて、それをもとに依頼して書いてもらうのがよいのでは。まずは次回までに、12個のテーマを。

◇前田さんの蔵書 神戸の前田さんからの蔵書第1弾が到着。

【9月運営委員会】9月13日（火）

◇12年版カレンダー ほぼ人物決定。

◇13年版カレンダー 3人をテーマ別にしていろいろな方に原稿を依頼するという内容でいく。

《コンセプト》▽虐殺90周年を機に、3人のいろいろな側面にスポットをあてる／名前を知っていてもどんな人物かわからない人たちにもわかるような内容

●寄贈書

大東仁さんより

大東仁『高木顕明の真実』風媒社 2011年4月 248頁 19cm

片倉悠輔さんより

『フリーダム』1899年〜1923年のデジタル・データ

飯澤文夫さんより

『三木武夫研究Ⅱ』2011年 明治大学史資料センター

2011年3月 553頁 21cm

黒田雷兒さんより

《各文章テーマ》▽大杉栄Ⅱアナキスト／労働運動／サンディカリスト／自由人／自由恋愛／エスペランティスト／国際人／翻訳者（ファーブル昆虫記）／芸術論／遺児たち▽伊藤野枝Ⅱアナキスト／労働運動／青鞮／辻潤／代準介▽橋宗一Ⅱ墓碑（大共ニ虐殺サル）

『ACT 芸術観点47』（中国文）2011年7月 160頁 25cm (ACTⅡ Anarchie

Counter-Culture of Trans-East Asia)

小松隆一さんより

『日さまし時計』1号、2号

1960年頃、横浜市

『法律と強権』クロボトキン

戦前パンフ 58頁 14・5cm

『海燕（海燕通信改題）』8号

1976年12月 20頁 21cm

『社会主義神髓』幸徳秋水（第7版）由分社版および証拠物贈

本（カリ版）

／母あやめ、父惣二郎・墓前祭（約40年、現在まで）▽資料Ⅱ年表（ばる出版から出版予定の大杉栄全集と提携）／人物紹介

◇イベント「アナキズムと美術」（仮）について、高野さんのほか、「肉体とアナキズム」著者の黒ダイ兒さんも福岡から招いて11

『現代書詩』70・71号（1978年7・8月）12頁 26cm

「大杉栄メモ」と安成二郎の小松隆一宛書簡（同メモは『自由思想研究』に掲載）

ポスター・望月桂展（2002年）

Labor-Management Reporting and Disclosure Act of 1959 University of Illinois

*このほか、まだ整理できていませんが、小松隆一さんよりダンボール1箱、前田幸長さんよりダンボール6〜7箱（整理中）

月中旬に開催と決定。グッズなどの販売も。

◇金子文子の写真 2010年大逆事件カレンダーに掲載の金子文子の顔写真が違っていたことについて、文献センターとして、訂正文をセンター通信と来年カレンダーにその旨記載する。

が寄贈されています。これらも、整理が済み次第、皆さまに報告します。

アナキズム文献センター通信

第17号

発行／2011年11月20日

発行所／アナキズム文献センター

編集／運営委員会

連絡先／東京都新宿区新宿

1・30・12・302

郵便振替口座／

00850-3-30010

口座名 A文献センター

Eメール／ info@cira-japan.net

定価／一部100円